

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会
道北エリア分科会
議事要旨

1. 開催日時

令和7年7月29日(火) 10:00~12:00

2. 開催場所

旭川トーヨーホテル 水晶の間

オンライン併用

3. 議題

- (1) 大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第20回)の開催結果について
- (2) 令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について
- (3) 災害廃棄物処理に関する情報提供
- (4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討
- (5) 次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出
- (6) その他

4. 議事

- (1) 大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第20回)の開催結果について
 - ・事務局より大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第20回)の開催結果について説明し、意見交換が行われた。
- (2) 令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について
 - ・事務局より令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について説明し、意見交換が行われた。
- (3) 災害廃棄物処理に関する情報提供
 - ・事務局より災害廃棄物処理に関する情報提供について説明がなされた。
- (4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討
 - ・事務局より災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討について説明し、意見交換が行われた。

(5) 次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出

- ・事務局より次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出について説明した。

(6) その他

【意見交換】

(1) 大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会（第20回）の開催結果について
(意見等なし)

(2) 令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について

○ 民間団体

資料 P7「計画策定・改定に関する課題と解決方法を検討」の課題「専門的な情報や知識が不足している」について、災害廃棄物発生量を推計するための係数は随時見直されていることは理解している。そのことを踏まえて、すでに計画を作成している自治体は、作成時に使用した係数と最新の係数で発生量の差が生じていると思うが、発生量の差について計画を作成している自治体はどのような対応をしているのか知りたい。

○ 事務局

直近では、能登半島地震の公費解体がまだ進んでいる状況なので、実績値についてはこれから検証も進んでいくと思う。これまでに起こった災害に伴い係数は改定されていくので、過去に作られた計画は知見が活かされていない内容になっているのが実情だが、環境省としては北海道の計画策定率は49%なのでまずは計画を作ってください、すでに計画を作成している自治体は最新の知見を踏まえて計画改定をしていただきたいと思います。

また、(全国的には) 都道府県によっては策定率100%のところもあり、そういった自治体では作った計画が災害時に活用できるものになっているのか検証を進めていく流れになっている。

(3) 災害廃棄物処理に関する情報提供

(意見等なし)

(4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討

○ 民間団体

情報提供は、大変参考になる。課題に関しては、間違いなく自治体がしっかりと動いていないことが検討すべき課題だと思う。計画を立てることは大事なことだが、その後の中身の打ち合わせ等が全くできていない状況であると思っている。そして、そのようなことを自治

体がメインとなって行うことで課題の解決を一番に進めることができると思う。

エリアに関して、稚内市や旭川市も含めて道北エリアとしてまとめられているが、地震が起きたときには海辺は内陸よりも津波の被害があるなど、被害の質がエリアの中で違って災害廃棄物の種類も違ってくるのに同じ対策をエリアの中で進めても問題ないのかどうか、また、このエリアの区分で合っているのかと思っている。

○ 事務局

自治体の動きが見えてこない、計画を作るだけでは不十分なことに関してはご指摘の通りだと思っている。道北エリアは、全国に比べて計画策定率が低い北海道の中でさらに低い状況となっているので、まずは計画を作っていただきたいと思っている。その上で作られた計画の実効性を実際に検証してブラッシュアップしていくのは自治体の役割だと認識している。

また、職員の育成の事例として、先日、苫小牧市で行われた仮置場設置運営訓練は、北海道産業資源循環協会日胆支部と協力して3年前から苫小牧市が独自に行っている。北海道産業資源循環協会日胆支部と協定を結んだことを契機に訓練を始めたということだった。このように、メインは計画を作る自治体だが、計画や協定でどのようなことを民間に協力していただけるのか詰めることが必要だと思う。仮置場の訓練に関しては昨年度に帯広市と日高町で行っており、今年度も調整中だが3か所で行いたいと思っている。訓練に参加していただくことで計画を作ることや仮置場の見直しにつながればと思っている。

検討の内容を道北エリアとしてまとめていることに関して、エリアの中でも想定される災害が違うことは承知している。災害廃棄物は、一般廃棄物に該当するというので各自治体が処理することが定められているが、ブロック協議会やエリア分科会の中で想定する災害は、広域が被災するような災害であり、一自治体では処理が不可能な災害廃棄物量を想定しているので、振興局、エリア、北海道や全国的な対応が求められる。そのため、道北エリアで災害廃棄物の処理を協力するという意味でのエリア分けと理解していただければと思う。地震だけや水害だけと単一的な災害を想定するのではなく、エリアの中で発生した災害について対応できる部分を考えていきたいと思っている。

これまで検討はブロック協議会として札幌で会議を行っていたが、情報がなかなか市町村に伝わらないということで、エリア分科会を設置しまずは市町村にブロック協議会での情報を共有できるようにしたいというのが（エリア分科会の）大きい目的であった。

○ 民間団体

北海道と北海道産業資源循環協会は、協定を結んで応援体制は取れていると思う。災害廃棄物は一般廃棄物ということで、各自治体は委託している一般廃棄物専門の業者があると思うが、平時からその業者も計画に組み込んで災害廃棄物の処理について対策を検討することは重要だと思う。

○ 事務局

災害時にも出てくる生活ゴミと言われる通常のゴミは、一般廃棄物処理業者にメインで処理していただくことになる。

また、大規模災害が起これば全域が被害を受けるが、そうではない場合は被災している地域としていない地域に分かれて被災していない地域は日常と変わらないので、一般廃棄物業者は生活ゴミの処理をしていただくことになる。災害時は地元の一般廃棄物業者や企業も被災するので、その中で災害廃棄物の処理ができるのかどうかの判断も難しい部分もある。

北海道産業資源循環協会に検討に加わっていただいているのは、北海道と協定を結んでいるということもあるが、(被災した家屋の)公費解体になってくるとほぼ産業廃棄物に近いものになってくるため、自治体や一般廃棄物を扱っている職員では扱いが難しい。そのため、産業廃棄物処理のノウハウを持っている北海道産業資源循環協会に協力していただくことになる。

苫小牧市のように、自治体が北海道産業資源循環協会と個別の協定を結んでいれば、災害が起こったときに慌てずに対応できる。計画を作るだけや協定を結ぶだけではなく、普段からの情報共有や連絡体制を作ることやどういったことをお願いするのか、何ができるのか整理することが重要だと思っている。

○ 市町村

北海道の計画での災害廃棄物発生量と、自治体が推計している災害廃棄物発生量は整合が取れているのか。想定災害の規模も合わせているのかどうか。

広域連携について、周辺の市町村と協定を結ぶ等と資料にあるがどの程度の周辺市町村を想定しているのか。旭川市は、協定を結んでも規模的に周辺の市町村は受け入れが難しいのではないと思う。旭川市の規模の災害廃棄物を受け入れるとなるとある程度の規模の市となり周辺からは離れていると思う。そのようなことも想定しているのかどうか。大規模な災害時は周辺の市町村ではなく振興局に協力を求めることになる。

○ 事務局

北海道の災害廃棄物発生量との整合性については、計画の策定期間により係数や想定災害が異なるため合わせられていないと思う。災害想定については災害廃棄物というより防災サイドで被災家屋など更新される。北海道が計画改定したのと同時に全ての自治体でも計画改定すれば(整合性が)合うが現実的に難しい。

広域連携について、災害時は近隣自治体も被災しているので、旭川市の規模であれば周辺自治体を支援する立場だと思われる。そのため、旭川市が大規模に被災した際には、まず振興局に相談しそこから道庁に相談という形になるのではないと思う。

○ 市町村

補足として当市の災害廃棄物の災害想定は、当市の地域防災計画での災害想定レベルと合わせている。他の自治体がどのような形になっているのか把握していなかったのも含めてうかがいたかった。

(5) 次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出

○ 事務局

今年度のエリア代表に関しては、上川総合振興局と名寄市に引き受けていただき6月のブロック協議会、年度末にも予定されているブロック協議会の参加にご協力していただく。

今までのエリア代表選出は、道と協議して決めていたが、改めて次年度以降のエリア代表を選定するための新たなルールを道庁と協議したいと思っている。

事務局としては、いろいろな自治体にブロック協議会に参加していただきたいと考えている。また、1年交代では短いと思うので2年くらいの期間で順番にできればと思っている。道庁と協議して新たな選出のルールを決め、皆様にご報告したいと思っている。

(6) その他

(意見等なし)